

みどりみらい 2nd SEASON ぐんじとしのりの議会報告

2006/04/30 Vol. 86 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / mmirai@kitemachi.com

印西市議会/平成 18 年第 1 回定例会報告 (5)

～ (続) 2007 年問題と印西市を語る

いつもお世話になっております。印西市議会第 1 回定例会 (3 月議会) は、3 月 23 日 (木) までの会期にて行われ、平成 18 年度一般会計予算案等 36 議案を審議し、閉会しました。今回も引き続き、3 月議会での私からの一般質問、市執行部からの回答を中心に報告していきたいと思っております。

3/1 (水曜日) に、一般質問に立ちました。

以下、市当局の回答です。

2. 2007 年問題について

団塊の世代と言われる年代の方々々が退職の時期を向かえ、印西市を始め日本の企業も、社会全般にこれまで経験のない転機を迎えています。一方、少子・高齢化時代がしばらく続くと考えられる現在、様々な課題を印西市としてはどのように考え、対策をとっていくのだろうか。

(ぐんじとしのりより市民の皆様へ / 再質問と執行部からの回答)

前回の紙面で印西市では「団塊の世代の貴重な人材を活用するのは難しいのではないか」とご報告申し上げました。今回は、引き続きアクティブシニアに対する施策はどのような内容がよいのか、そしてどのようにしてその施策をつくりあげていくのかを考えていきたいと思っております。

執行部への再質問 / 「市が推進しております市民参画や市民協働体制づくりの一翼を、団塊世代の皆さんは担っていただける」といった回答が保健福祉部長からありました。では、市としてどのように地域社会への参画の促進・誘導、情報提供、活性化への条件整備などを行っていくのですか？また、団塊の世代の皆さんが市民参画や市民協働体制づくりの一翼を担うために、市はどのような機会を提示しますか？市の役割について質問させていただきます。

(回答 / 保健福祉部長) アクティブシニアの方々を印西市のまちづくりの観点、活性化の観点で生かすことができれば、ある意味では都市間競争の勝ち組になると思います。(団塊の方々の) 蓄積された能力を活用することは市にとっても大変有益だということからも関係する部課とも連携しながら、先進地の事例も十分に研究させていただきます。市としての施策につなげていきたいと考えています。

(ぐんじとしのりより市民の皆様へ / 再質問と執行部からの回答)

市の施策として、ボランティアや NPO をやってみたいという方々に対してのファーストステップセミナーであるとか、参加気運の醸成やきっかけづくりとしてのシンポジウムやセミナー等の実施が考えられると思います。また、市のホームページを通じてのボランティアや NPO 活動に関する情報の提供などが考えられますし、例えば、市の活動支援内容や NPO 活動の参画の手引きとなるガイドブックについては、ここにありませうといった情報提供を広報すべきではないのでしょうか？ 執行部には本会議場で伝えましたが、市民の皆様はどのように考えますか？

執行部への再質問 / 印西市の回答をお聞きしていると、団塊の世代の方々を中心とする「アクティブシニア」はひとりの市民として日常生活についてどのような意識を持ち、地域活動への参加についてどう考え、勿論市政のありかたについてどう思っているか殆ど掴んでいないと思われまます。今後、安心して住みよい社会をつくるために、まもなく「第二の人生」に踏み出そうとする彼らに対して、今の生活をどのように感じて、また地域社会との係りかたを含め、将来どのような生き方をされようとしているかを把握するために早急にアンケート等で調査すべきであると考えますが、どのように市は考えますか？

(回答/保健福祉部長) 団塊の世代の方々はある新聞記事によると「背に腹はかえられない派、それから、もう疲れた派、それから現場と常につながってほしい派」とかいろいろあるようでございますので、市としてもそういった方々の特徴を印西市としてどういう方々がいるかということも含めまして特徴を把握したいと思います。18年度予算では地域福祉計画というものを今作成すべく、取り組んでいるところですが、その中に団塊の世代の活用についても盛り込んでいけたらというように思っていました。それを受けた形で平成19年度以降にアンケート等の調査を行いまして、施策に反映させていけたらと思っております。

(ぐんじとしのりより市民の皆様へ/アクティブシニアへの施策をどう考えますか)

私は、団塊の世代への施策については、本年より始まる **第二次基本計画の中に記載がある「2-2 活力ある長寿社会の創造 *生きがいづくりと社会参画の促進(介護福祉課)」** を策定する前に、この2007年問題というのはわかっていることだから調査し、その内容を盛り込むべきだったと思います。今回の質問をするにあたり、関係部署からは高齢化率をはじめとする数字をだしてもらいました。印西市は千葉県内では浦安市について低い数値になっています。もしかすると、だから「アクティブシニアに対する施策がない?」とか考えてしまいましたが、55歳や60歳は老人とはいえないのですから、福祉的な視野からの施策でなく、独自の施策をしっかりと検討していくべきではないかと思えます。これはアクティブシニアが増加することにより消費も増え、都市間競争にも勝ち残れる要素がでてくると考えるからです。そのためには平成19年度ではなく、早急にアンケート等を実施してもらいたいと思えます。

一方、忘れてはならないこともあります。昨年3月の「印西市老人福祉計画・介護保険事業計画(第3期)策定に関わる調査・分析業務報告書」の内容を見ると、……いきがいをなくしたシニアたちがいます。なぜでしょう? 印西市ではシニアが家の中にいるよりも外に出て「元気に活動できるまちづくり」を目指して欲しいと思います。将来、千葉ニュータウンが千葉オールドタウンと揶揄されないように政策を打ち出していくべきです。

先進事例はあるか?

平成15年3月に和歌山市で策定した「和歌山市アクティブシニアのまちづくり推進プラン(仮称)」という報告書があります。この中には今まで印西市では全く見られなかった福祉や医療以外の心身ともに健康なアクティブシニア達を対象とした生活の質を高めるための施策について書かれています。シニアの活動支援、シニアの就労支援、シニアのビジネス支援等々が記載されています。私は市の執行部に対して、他の自治体でもアクティブシニアに対する施策がありますので是非、検討して欲しい旨を伝えました。

団塊の世代の方々、高度経済成長からバブル崩壊という時代の流れの中で、その時々々の社会現象あるいは経済現象の主役でありました。そしてこれからは高齢社会の主役になるうとされており、今後、地域にとって重要な人的資源になると思えます。「能力を活用させていただくことは、市にとりまして大変有益なことであると考えております。」といった市からの最初の回答もありました。しかし、考えるだけでなく実際に市と団塊の世代の方々を中心とした市民の手で「まちづくり」を行っていただきたいと思えます。

印西市 平成18年度主要事業のご紹介(2)

今回は「地域医療推進事業」をご紹介します。

* 地域医療推進事業(予算 769万円~新規事業)

診療所および診療科目の整備に努めるとともに病院の誘致を推進するため、保健・医療についての基礎調査を行い、「**印西市医療整備基本構想**」を策定するものです。~誰もが安心して受診できる医療体制を確立するため、医療機関の誘致・充実を図るとともに、在宅診療や休日・夜間医療、緊急医療など多様なニーズに対応した連携体制を強化し、安心して暮らせる医療体制をつくることを目標とします。(基本構想の策定には策定委員会(市民公募を含めた10名の委員で構成の予定)を設置し、検討されるとともに、基本調査は5月より開始されます。)

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。あるべき市政の姿を求めて皆様と手を携えていきたいと思えます。よろしくお願いたします。

ぐんじとしのり